

# 平成20年度 第3回 北九州市地方独立行政法人評価委員会

## (会議要旨)

- 1 日時：平成20年8月1日(金) 14:00～16:00
- 2 場所：北九州市役所庁舎 5階 特別会議室A
- 3 出席者：
  - 委員(五十音順)
    - ・石田委員長、片山委員、城水委員、福地委員
  - 公立大学法人北九州市立大学
    - ・本村事務局次長、神崎ひびきのキャンパス担当部長、江島経営企画課長、二宮総務課長 ほか
  - 市側
    - <産業経済局>
      - ・田島学術振興課長 ほか
    - <財政局>
      - ・近藤都市経営戦略室長、古澤都市経営戦略室次長 ほか
- 4 議題
  - (1)北九州市立大学の平成20年度年度計画について
  - (2)北九州市立大学の平成19年度業務実績の評価について
  - (3)北九州市立大学の平成19年度財務諸表の承認・剰余金の繰越承認及び北九州市立大学の中期計画の変更認可について
  - (4)その他・今後の予定等について

(事務局)

ただ今から「平成 20 年度 第 3 回北九州市地方独立行政法人評価委員会」を開催させていただきます。

(委員長)

それでは、早速、議題に沿って進行してまいりたいと思います。第 1 の議題は、北九州市立大学の平成 20 年度の年度計画について、説明をお願いします。

( 1 ) 平成 20 年度年度計画について、北九州市立大学から説明

(委員長)

どうもありがとうございました。

平成 20 年度の計画につきまして、委員の皆様、何か質問等はありませんか。

(委員)

カー・エレクトロニクス事業の推進について、いい事業だと思うのですが、企業等との連携強化については、どのように連携強化するのかというイメージをもう少し分かりやすく説明する必要があるのではないのでしょうか。

(大学)

基本的には、中核人材の育成事業については、学研地区に 3 つの大学がありますので、その大学教育においてカー・エレクトロニクスの専門コースをつくって、授業を一緒にやることを考えています。その中において、企業の研究室のインターンシップを、今のところ、この人材育成事業の目玉にしています。

ですから、研究室に大学院生が行って、一定の期間研究をします。そういったことから、将来的には、大学院のコースを修了した人が、企業にまた就職できるような形にします。カー・エレクトロニクスの事業においては、このようなことが連携の中心になります。

(委員)

企業と学生と、大学院生との間のレベル差が分からないので、連携といっても結構大変ではないのでしょうか。

(大学)

一つは、講座の中に企業の研究者が来て教えるという形があります。そういったことで、企業のニーズとか、どのような研究をやっているかが分かるというものです。それから、実際に企業の研究所において、一定の期間、大学院生が共同研究を行ったりするインターンシップを行うという形があります。

大学院生ですので、ある程度のレベルは共有できるような形にしたいと思っております。

(委員)

留学生に健康保険への補助をするというのがありますが、これは具体的にはどういう補助をするのですか。

(大学)

国民健康保険料の9割を大学が負担するということです。

(委員)

20年度の計画で、例えば122番の市民向け多文化理解講座というのがあります。こうするのは、非常にいいと思います。というのは、今から地域創生の学部を設けたりする中で、非常に実務的なものは多いのですが、文化を理解するとか、哲学的なものとか、文学的なものなど基礎的な知識を市民のための講座に取り入れるというのが、より大事なことだと思います。そのような講座は受講者が少ないのですか。

(大学)

公開講座は大体6、7講座やっています。その中で、結構文化関係は多いです。例えば「英米文学のふるさと」とかいうのは、ここ何年かずっとシリーズでやっていますが、100名定員で200名とか、そのぐらいくまっています。高齢の方や女性も結構多くて、人気があります。

また、中国語関係は、語学だけではなくて、中国の文化などもやっています。

(委員)

やはり北九州市民の文化をつくるという意味では、そういう基本的なところをしっかりと学びたいという方もたくさんいらっしゃると思います。いわゆるカルチャーセンターとかでは物足りない、もう少し本格的なものを学びたいという方のための、そういう文化的な講座等を取り入れるというのも、大学にとっては1つの任務というか、果たしていただきたい役割だと思います。

(大学)

アメリカのミュージカルは、2、3年続けてやっていて、これはもうシリーズものみたいな形になってきています。

(委員)

たくさんの講座とか、カルチャーセンターがあるのですが、それで物足りないという、いわゆる団塊の世代以降の方々の学ぶ場としての受け皿みたいなものになるよう、よろしくをお願いします。

(委員)

一般的に、文化的な講座は、高齢者に人気があって、特に歴史ものは結構多いと思いますので、それは大学で充実して実施してほしいと思います。

(委員長)

他に質問等はありませんか。

それでは、次の議題で、平成 19 年度の業務実績の評価についてです。まず、進め方について、事務局から説明していただき、その後、大学から説明をお願いします。

(2) 平成 19 年度業務実績の評価について、事務局及び北九州市立大学から説明

(委員長)

ありがとうございました。

質問、意見等がありましたらお願いします。

(委員)

サークル会館など課外活動施設等の計画的な改修・整備というのは、具体的にはどのような内容ですか。

(大学)

建物、グラウンド等の設備を充実させていくというようなことです。

(委員)

定年退職の教員を特任教員として雇用する制度について、「優れた教育、または研究の能力及び実績を有する者」ということになっていますが、これは具体的にはどのように決定するのですか。

(大学)

教育研究審議会で決定します。定年退職した教員のうち、特に優れた業績などがある場合、最大 5 年雇用できます。

(委員)

サバティカル制度について、博士号取得が条件ではなく、「顕著な業績を上げた場合」となっています。また、教員の採用の時には必ずしも学位取得者を優先するのではなく、教育能力その他を勘案してということになっています。すると、サバティカル制度の「顕著な業績」というのは、研究オンリーなのですか、それとも、例えば、一所懸命教育、行政などいろいろ取り組まれた方も含めてなのですか。

(大学)

はい、そうです。博士号取得は大きな要素ではありますが、それに限らないということです。

(委員)

留学生について、非常に中国からの留学生が多いと思いますが、就職先は本国へ帰るのか、日本で就職するのか、分かれば教えてほしい。やはり中国人の留学生は、日本へ来て、日本の企業に就職したいという希望が非常に強いと思いますので、どのような状況なのでしょう。それと、博士を取得する留学生はどのくらいいるのでしょうか。

(大学)

別途資料で提出させていただきたいと思います。

(委員)

「地域やNPOとの連携」について、非常によくやられていますが、大学側が目指しているものは、子育てネットワークとか、コラボラキャンパスネットワークという感じのものを予定されていたのでしょうか。

例えば、中期計画で、自治会等地域住民団体とありますけど、地域住民の団体と、目的を持ったいわゆるボランティア団体、愛好家団体等は違うと思います。問題を持っているのは地域団体のほうが多いと思いますが、大学として方向性はあるのですか。

(大学)

まだはっきりしていないところがあります。そこは明確にしていけないといけないというふうに思っています。中期計画の残りの2年間で着地点を明確にしたいと思っています。

(委員)

それから、「海外からの優秀な学生の受け入れ」について、優秀な学生の確保のため、現地に行って面接をしたりするのですか。

(大学)

ひびきのキャンパスの国際環境工学部では、大連での入試を行っております。

本年度入学した学生までは、学部生について実施しておりましたけれども、来年度の入学生からは、大学院入試についても大連で実施します。

(委員長)

他に、質問等はありませんか。

どうもありがとうございました。

<北九州市立大学関係者 退席>

(委員長)

引き続き、項目別評価と分野別評価について審議します。  
それでは、事務局から説明をお願いします。

<事務局から説明>

(委員長)

ありがとうございました。委員の先生方から評価表を出していただいて、評価の違いは若干ありますけれども、ほぼ共通していると思います。

事務局から説明があったとおり、これをそれぞれの分野別評価にまとめています。  
他に意見等ありましたらお願いします。

<意見なし>

(委員長)

それでは、全体評価について事務局から説明をお願いします。

<事務局から説明>

(委員長)

ありがとうございました。意見等ありましたらお願いします。

<意見なし>

(委員長)

それでは、次の議題に移ります。財務諸表の承認、剰余金の繰越承認、および中期計画の変更認可ということで先般説明がありましたが、これについて事務局から説明をお願いします。

(3)平成19年度財務諸表の承認・剰余金の繰越承認及び中期計画の変更認可について、事務局から説明
--------------------------------------------------

(委員長)

ありがとうございました。それでは、特に意見はないということですので、この意見書で決定させていただいて、提出するように手続きをお願いいたします。

それでは、4番目の議題に移ります。今後の予定について、事務局から説明をお願いし

ます。

( 4 ) 今後の予定等について、事務局から説明

( 事務局 )

本日はありがとうございました。

次回の委員会では、本日ご審議いただきました大学の平成 19 年度業務実績の評価結果の最終的な確認、これを中心に議論をいただきたいと思っております。次回の委員会は 8 月 7 日木曜日の 14 時から、場所はこの会議室の隣のプレゼンテーションルームでお願いいたします。次回の委員会が終わりましたら、最終的には 8 月 19 日に委員長から市長への意見書の手交、その後記者会見をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

( 委員長 )

それでは、これで本日の委員会を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。